

人と意見

肉畜振興政策確立の急務

岡山県総合畜産農業協同組合連合会会長 三宅忠雄

日本経済の伸張と農業の改変に伴ない、国内における畜産物（肉乳卵同加工品）の需要は最近急速に増加しておりますことは、御承知の通りでございます。生産面におきましてもこの需要を見越しての生産増殖計画が立案せられ、夫々施策されておるところであり、農業の構造改善事業、あるいは営農団地の造成の作目として畜産が大きくクローズアップされており、まことに御同慶に存じます。県におかれましても昭和40年末を目途に肉畜一和牛151,150頭、豚64,000頭一乳牛67,000頭、鶏300万羽、ブロイラー200万羽の保有をするよう計画されております。しかし現況からみますとこの達成は困難ではないかと危惧されます。極言であります。ムード畜産であり華々しい掛声にかかわらず計画達成は非常に難しく、所得増加への畜産が壁に突き当たっている状態です。本県の農業全体の停滞ないし後退のムードの中で、特に基盤の不備、資金、労力不足、回転のニブサ等大動物は幾多の問題をかかえており伸び悩んでいる現状であります。昨38年は不幸にして豪雨長雨あるいは局地豪雨等と牛産地に極めて大きな被害をもたらし、更に飼料高値が加わり生産仔牛の安値等悪条件の累積により、生産意欲が失われ基礎牝牛さえ現金化肉畜化の方向をたどりました事はまことに憂慮すべき状態であります。一方肉の消費は順調な歩みで伸びており、県営食肉市場を通じての共販は漸次好転拡充の方向へ進み、価格形成もまた堅調でありまして肥育牛の飼育、養豚は前向きの方角へ進んでおり、この影響として肉牛素畜の所得が全国的に困難であり、仔豚の高値を招来しております。更には需要を満たし得ず外国内の輸入も実施されているところでありまして、肉畜の振興は目下急務と存

じます。

しかしながら前述致しました如く諸種の悪条件からして生産の意欲が低下している事、農業の後退等からしてにわかに増産が困難な現況に鑑みまして、ここに速やかな肉畜振興施策の確立を要望するものであります。これが具体策としては諸般にわたる問題ではありますが、

- 1、仔牛仔豚価格の安定策
- 2、生産基盤の整備（特に和牛）
- 3、流通の改善（共販、枝肉取引の確立）
- 4、飼料対策
- 5、長期低利資金の確保
- 6、食肉の日常生活への普及宣伝
- 7、食肉の国内確保
- 8、指導体制の確立

等々抜本的に検討を加え早期に各種機関が協力して、真に岡山県にふさわしい肉畜振興策が樹立され、実行せられますことを心から祈念する次第であります。又自らもこうした方向へ努力致したい所存でございます。